

2021年11月の行事予定表

1	月	教団理事会	16	火	
2	火	//	17	水	
3	水	(文化の日)	18	木	
4	木		19	金	
5	金		20	土	
6	土		21	日	礼拝式
7	日	永眠者記念礼拝式、墓前礼拝式	22	月	
8	月		23	火	(勤労感謝の日)
9	火		24	水	
10	水		25	木	
11	木		26	金	
12	金		27	土	
13	土		28	日	礼拝式(アドベント=待降節)
14	日	礼拝式、教会役員会	29	月	
15	月		30	火	

11月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

急な冷え込みで驚いた方も多いのでは？体調管理には十分にご注意を。
今月は通常礼拝再開のレポート、N.D.姉のお証に K 片岡兄のラジオ体操逸話、
そして、教会学校の子供たちのお知らせと盛り沢山の内容でお届けしました。

11月～12月は例年なら教会行事が目白押しですが、今年はまだ決まってい
ない行事がほとんどです。

神さまに喜ばれる教会の催しが行われるよう祈ります。

教会月報

2021年11月

No.366

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

生者と死者の世界

「兄弟たち、眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知ってほしい。」

I テサロニケ 4 章 13 節(聖書協会共同訳)

いつの時代でも、この世に生きる者と死せる者との境界は決して乗り越えられるものではありません。そこには険しい淵があると考えられています。日本では春と秋の彼岸会や盆(盂蘭盆会)のころ墓参し先に亡くなられた方を思慕します。

小生も、故郷にあった公営墓地において兄弟同士、墓参したことが懐かしく思い起こされます。そこでは、故人を偲び、あれやこれやと語り合ったものです。

さて、聖書では生者と死者について、どのように語っているのでしょうか？

使徒パウロはテサロニケに宛てた手紙の中で語っているのが今月のみ言葉です。そこには、手の届かないあの世に行ってしまった亡き方に対する絶望感ではなくて、私たちにはイエス・キリストによって希望があることを伝えています。彼自身、イエスが死んで復活されたと信じていることを公言しています。

そして、やがて主の再臨(来臨)される時が来ることを宣べています。その時、生きている者も死者も復活させられてイエスとお会いできるのです。

あなたは、死後の世界を信じますか？
既にイエス・キリストは十字架と復活によって死を克服されました。救世主である主イエスを信じることによって、私たちはやがて死を迎えますが、今生きている者として死を先取りすることになるのです。

牧師 永松 清

会堂での通常礼拝再開！

10月3日、待ちに待った会堂での通常礼拝が再開されました。第一日曜日かつ世界聖餐日ということもあり、出席者みんなで聖餐に与りました。まだまだ以前の出席者に届かない人数でしたが、今後少しずつ礼拝の喜びに与る幸せの数が増えるよう祈ります。

(写真は10月10日礼拝後の写真)この日はナザレン日(ナザレン教団設立記念日)ということで記念写真。この後、永松師の2023年3月での引退の発表と今後の対応に関する「教会員全体協議会」が開かれ、今後の対応を役員会で協議する事となりました。



10月10日礼拝後の記念写真

教会学校の子供たちレポート(続)

コロナ禍で色々出来ないけれど、僕は元気です。マスクをつけて行動しています。教会学校が始まったら行きたいので、よろしくお願いします。～T.Y.～

昨年度は学校の臨時休校やその後の夏休みの補習、プール授業の中止、また今年度はプール授業はあったものの運動会がなくなるなど学校行事も大きく影響を受けています。また普段からマスク着用やソーシャルディスタンスの徹底、給食でも黙食が求められ、家庭でも外出の機会が減って息苦しい日々が続いています。息子は相変わらずマイペースで賑やかな一方、コロナの流行開始と同時期に転居・転校して人間関係を一から作らなければいけなかったことも重なり、ストレスも感じながら過ごしてきたようです。

本人も「教会学校が始まったら、行きたい!」とたびたび言っており、教会の先生や皆さんが息子のより所のひとつになってくださっていることを、大変ありがたいと感じるとともに、早くコロナ禍を乗り切って以前の日常に戻れることを願っています。～両親より～

M3兄弟(S君、R君、S君)、
病気もせず元気です。
先日、主人の実家で稲刈りをしました。

今年は水害も少なく豊作でした。
俊平は、穂の中に米が入ってる!
この一粒一粒がご飯になっているんだなあと
びっくりしていました。これからはお茶碗に
一粒残すのもったいないね。

神様から与えられた恵み。稲刈りを通して感謝し、
祝福の一日でした。～S.M.～



(写真) M3兄弟の稲刈りの様子

岡山県総合グラウンド夏休みラジオ体操



R3年7月20(火)～8月31日(火)

昨年の夏休みが始まった朝、二人の幼い姉妹が会場について「おじちゃん、ラジオ体操の出席者カードにハンコ全部押したら・・・何もらえるん?」!!、返答できず思わず「わからん・・・」と言ってしまいました。ラジオ体操仲間に伝えると「何とかしてやろう!」と力強い返事。そうなる何とかなるもので、ラジオ体操に参加していた子どもたち50名にプレゼントを渡すことができました。

令和3年、2年目のこの夏には70名の子どもたちにプレゼントすることができ、カンパを申し出てくれた方が20名おられました。夏休みの期間中こんなに祝福されたことはまさに感謝! 毎朝毎朝子どもたちのパワーを受けて、夫婦二人で出席ハンコを押し続けました。そのときに子どもたちの大きな声「おはようございます!」「ありがとうございました!」その中の3才の男の子は手を上げてハイタッチ!!なんと可愛いことか! 本当にありがとう。来年の夏を心待ちにしています。

《わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れるものは、わたしを受け入れるのである》
(マルコ9:37) 《文責 S.K.》



(写真・今年のプレゼント贈呈の様子と体操中のK兄)

10月証し

N.D.姉

「四人目の孫誕生」

9月30日4人目の孫が生まれました。長男のところに、切迫早産で助けが必要と駆けつけたのは、初夏のことでした。それから皆さんにもお祈り頂き、無事この日を迎える事ができました。道中起こった様々なことを思うと、神様に祈らなければ心配な心に支配されていたでしょうし、神様の守りの中にいるという平安を得られなかったと思わされます。

そんなこと当たり前でしょ、とお叱りを受けるかもしれませんが、自分が通る分にはもう少し腰を落ち着けて対応できるのですが、子供世代、孫世代が被ることを支えるのは間接的な上、必ずしも同じ判断になるとは限らないので、ある部分は祈って任せる、でも本気で祈るということを試された気がします。

また若いとはいえ本人たちは身体的に(精神的にも)ギリギリのところを通されました。でも新しい命を得て全てがとけていき流れていく様子を見ることもでき、支える側の私もホッとしました。生まれたのは女の子です。かつて2人目に当たるこの長男が生まれた時、5歳年上の長女が「赤ちゃん私とどっちが好き?」とお産扱いに来ていた主人の母に何度も聞きました。そのたび「そりゃあマナに決まってる」と答え続けてくれたのが、何よりの助けでした。

今度はそれが私の役目です。もう少しこちらでお産扱いをいたします。教会の皆様にはメールを通して、またメールが繋がらない方はハガキで祈りの支えを伝えて下さり、ありがとうございました。

